

TYPE OF INDUSTRY

2020年版情報通信白書によると、日本の情報化投資額は約12兆7000億円、民間企業設備投資額の14・8%を占める。今後ICTを活用したサービスの普及に伴い、さらなる規模の拡大が予想される。情報通信機器やソフトウェアなどの資産を対象とするリースは、リース業界の発展を牽引してきたといっても過言ではない。19年度のリース取扱高は2兆529億円、リース取扱高全体の約4割を占める主要

リース業界最前線

4

セグメントだ。「オフコン、メインフレーム」から「クラウド」「サーバ」そして「モバイル&クラウド」と、時代とともにトレンドが変遷する中、リース業界もそれらに対応したソリューションを提供してきた。ICTを活用した顧客ソリューションや契約形態の導入、パソコンに代表されるデバイスリースではなくレンタルで提供することになったのもその一例だ。また、携帯電話に

情報通信機器リース

新ソリューション提供



三井住友ファイナンス&リース専務執行役員
加藤 光一

金融

代表される現代社会に不可欠となった移動通信システムのインフラ整備において、リース会社は基地局を中心とする設備投資をファイナンス面で支援してきた。近年、ICT業界を

引く張る役割を果たしているのが、IoT・人工知能(AI)・クラウドなどの新技術・新形態で、リース業界も新しい製品・サービスへの対応を進めている。今後クラウド契約を対象とするファイナンスや従量課金型サービスの需要は、利用ニーズに即したファイナンスサービスで支援していく。さらに次世代の情報通信インフラである第5世代通信(5G)は、生産現場はもちろん、スマートシティや遠隔医療・教育、自動運転など、多岐にわたる産業で実装されること

を、利用ニーズに即したファイナンスサービスで支援していく。さらに次世代の情報通信インフラである第5世代通信(5G)は、生産現場はもちろん、スマートシティや遠隔医療・教育、自動運転など、多岐にわたる産業で実装されること

が期待される。国際競争力の強化、(隔週木曜日に掲載)